

郷土かみのかわの歴史・文化財

町指定文化財 上郷神社の鰐口

神社やお寺に行つて、願い事をするときに皆さんはどのようにするでしょうか？社殿に向かって礼をする前に、軒下に吊るされたものを、綱で振り動かして打ち鳴らしたりしませんか？その金属製品が鰐口なのです。

鰐口はまたの名を金口、打金などともいい、鳴らすことによつて、神仏に来たことを告げるのですが、形は写真のように円形、中は空洞で、音が響くようになっています。そして下には、横に長く口が開いており、これが下から見ると大きく開いた鰐の口のようになっていることから、鰐口という名前がついたといわれています。大きさは直径10cmくらいと小さなものから、1mを超える大きなものまでありますが、20〜30cmの大きさが一般的です。

この鰐口が納められている上郷神社は、古くは星ノ宮と呼ばれ、その後江戸時

代になり、上郷大明神、次いで上郷神社となつて現在に至っています。この鰐口は町内最古のもので、銅製で耳の張り出しから室町時代中期の特徴が見てとれます。横の長さは27cm・縦の長さは24cm・厚さは7cm、表には「康正元（1455）年三月十四日上河東浅条鎮守」、裏には「康正一（1456）年三月十三日願主蓮元下野州上条上三川星宮御寶前」という銘文が書かれています。そして鰐口が納められている箱には、「野州上郷惣鎮守神主森野氏」と記されています。

この鰐口が作られたと考えられる1455年は、鎌倉公方足利成氏による関東管領上杉憲忠を暗殺発端となり、幕府方・上杉氏方・鎌倉公方方が30年近くにわたつて争いを繰り返した享徳の乱が起つた年であり、戦国の世の幕開けとして知られる応仁の乱に先立って、

関東地方が戦乱の時代に突入したのです。当時上三川を支配していた宇都宮氏も1455年に当主等綱が、足利成氏討伐のために関東に進軍した幕府方の駿河国守護今川範忠に呼応し戦うなど、数多くの戦いに明け暮れていったのです。

戦乱の幕開けに際して、おそらく上三川城に関係する人が、安泰を祈願するために、この鰐口を神社に奉納したのでしょう。戦いを前にしてどのような願いを鰐口に人々が込めたのでしょうか？平和な時代を生きる私たちにはわからない切実な願いだったことでしょう。



上郷神社の鰐口

室町時代																	時代		
	1509	1506	1504	1482	1477	1473	1467	1460	1455	1449	1441	1440	1439	1438	1416	1399	1391	1380	西暦
	永正6	永正3	永正元	文明14	文明9	文明5	応仁元	寛正元	康正元	宝徳元	嘉吉元	永享12	永享11	永享10	応永23	応永6	明徳2	康暦2	元号
宇都宮氏と那須氏が対立。	足利政氏と高基の和睦が成立。	古河公方足利政氏と嫡子高基が不和となり、高基は古河を退去し、宇都宮成綱の元に逃げる。	長泉寺が建てられる。	將軍足利義政と古河公方足利成氏の和睦が成立する。（都鄙の和睦）	応仁の乱終わる。	横田綱親、普門寺をつくる。	応仁の乱始まる。	宇都宮等綱、足利成氏との抗争に巻き込まれ、奥州白河にて死去。	この年、上郷神社の鰐口が作られる。	鎌倉府復興。公方に足利成氏就任。	嘉吉の乱。	結城合戦起きる。	鎌倉府没落。鎌倉公方足利持氏、宇都宮等綱のもとで保護される。	永享の乱。幕府、鎌倉公方足利持氏を討つ。	上杉禪秀の乱。宇都宮氏は鎌倉公方足利持氏方に加わる。	応永の乱。	南北両朝統一。	裳原の合戦。	できごと